

春の陽射しを受け、桜のつばみもふくらみ始めた今日、大阪国際中学校第三学年六十二名が卒業を迎えました。本日は、公私ともにお忙しい中、大阪府教育庁私学課 村岡課長補佐様、本校PTA松永会長様はじめ役員の皆様、また、加えてPTA前会長の小鹿様にもご臨席を賜り、卒業生の門出を祝っていただきますこと、心から感謝申し上げます。本来であれば、その他にも多くのご来賓の方々にご臨席賜るところですが、本年はそれが叶いません。誠に口惜しい限りですが、皆様には日頃から厚いご支援やご指導をいただきありがとうございます。この場をお借りしまして、改めて御礼を申し上げます。

また、本日ご臨席いただきました保護者の皆様方には、ご子息ご息女の晴れのご卒業、誠におめでとうございませす。皆様には、お子様の三年間の日々の成長を暖かく見守ってくださり、そして本校の教育活動にご理解とご協力、ご支援をいただきました。心より感謝を申し上げます。

卒業生のみなさん、卒業おめでとうございます。十二歳の春に、大きな期待と不安を胸に本校の門をくぐったみなさんが、今、十五歳の春を迎えています。本校での三年間の月日が、みなさんを心身ともにたくましく成長させてくれたことは、みなさんの今日の姿や自信みなぎる表情を見れば明らかです。誠に喜ばしい成長ぶりです。しかしながら、みなさんが中学校生活を送ったこの三年間は大変厳しい時期と重なってしまいました。新型コロナウイルス感染症の拡大により、入学式は中止、その後も約二か月間も休校となり、みなさんの中学校生活は大変重苦しいスタートとなりました。その後も学校活動は大きな

制約を受け続け、文化祭や体育大会、修学旅行などの行事も、その多くが中止や延期、内容変更などを余儀なくされました。三年生になってからは、世の中の状況が少し落ち着きを取り戻し、学校もほぼ例年通りの活動が行えるようになっていましたので、みなさんもようやく思い描いていた学校生活を送れる、そんな実感を持てたことと思います。しかし、コロナ禍が無ければ、もっと違う形で中学校生活を楽しむことが出来たのにと、うらめしく思う人も多いと思います。しかし、「逆境は人を育てる」といいます。コロナでつらい思いをたくさんしたけれども、みなさんはその分強くなりました。命や家族、友人の大切さも学びました。そして、苦しいことも乗り越えていく力を身につけていっているはずです。コロナ禍でみなさんが学んだことは、きっとみなさんの強みになってくれるに違いないと思います。

また、みなさんの在学中に、本校は大きな節目を迎えました。キャンパスを大和田校地から松下町校地に移しての、新校「大阪国際中学校高等学校」の開校です。入学後に、慣れ親しんだ学校・校舎から移転することになったみなさんには、物理的にも精神的にも大きな負担を掛けてしまいました。が、斬新なデザインとコンセプトで各方面から評価をいただいている新キャンパスでの学びには、みなさんも満足をしてくれたものと思います。みなさんは、大和田と新校をつなぐ継承者、架け橋たる学年です。その両校ともを、思い出の学び舎、わが母校として、抱き続けてほしいと思います。

さて、卒業にあたり、私から一つ話をさせていただきます

す。この地域を代表する世界企業で、我々の学校の隣にも工場があるパナソニックの創業者、松下幸之助さんが、次のような言葉を残しています。

『人と比較して劣っているとしても、決して恥じることはない。けれども、去年の自分と今年の自分を比較して、もし今年の自分が劣っているとしたら、それこそ恥じるべきである』

人はどうしても自分と他人を比べがちです。私たちの愚痴や悩みはほとんどがこの他人との比較から生じているといっても過言ではありません。しかし、本当に比べるべきは、他人ではなく自分だということです。自分が負けてはならないのは、他人ではなく自分自身の弱さだということなのです。去年の自分と比べて今年の自分はどれだけ成長できたか。そして来年の自分はどうかありたいか。みなさんには常に向上心を持ち、自らの志に向かって一心に突き進んでいく、そんな人になってほしいと思います。

さて、みなさんが今学んでいる本校の校舎の壁には、著名人の言葉や名言などの数多くの「言葉のサイン」が書かれています。三階の吹き抜け空間に次のような言葉があります。

『発見の旅とは、新しい景色を探すことではない。新しい目でみることなのだ。』

これは、フランスの文学者マルセル・ブルーストの言葉です。みなさんは、この春から新しいステージへと進み、また多くのことを学びます。自分自身をみがき、自分自身を成長させ、物事を多様な視点で見られる目を養う。そして、自分の未来は自分で切り開く、これからの高校生活を

そんな新たな発見の旅としてほしいと思います。そうした日々を過ごしていけば、さらなる三年の月日がみなさん大きく育み、誰もが目を見張る素晴らしき若者にみなさんを成長させるはずです。

最後になりましたが、皆様方との出会いに感謝申し上げますとともに、卒業生の前途が幸多いものとなることを祈念いたしまして、私の式辞とさせていただきます。

令和五年三月四日

大阪国際中学校

校長 松下寛伸